

〔様式 1〕

事務事業評価表

記入年月日	平成16年4月23日			
平成16年度	事業コード	11320	電話	042-756-8410
担当部課名	保健福祉部	陽光園		第三陽光園
事務事業名	知的障害者通所更生施設（第三陽光園）運営事業			
予算上の事務事業名	第三陽光園			

1 総合計画における位置づけ

政策名	第 1 章	安心して生活できる福祉社会を作ります	事業開始年度
基本施策名	第 3 節	障害者の自立支援と社会参加	63以前年度
施策名	第 2 施策	療育体制の整備と保育・教育の充実	

2 実施根拠及び関連法令等

知的障害者福祉法・同施行令・同施行規則、指定知的障害者更生施設等の設備及び運営に関する基準、相模原市療育センター条例・同施行規則、

3 事務の区分

自治事務

4 経費の区分

その他の経費

5 事務事業の分類

国庫補助事業

6 受益者負担

あり

7 事業概要

(1)事業の目的...何をどのように(どのような状態に)したいのか	(2)対象(誰、何)	
知的障害者福祉法第21条の6に基づく知的障害者通所更生施設として、利用者の生活の質の向上や社会参加の促進を図りながら、利用者一人ひとりがその人らしい充実した生活を送ることができるように支援していくことを目的としている。	概ね18歳以上の知的障害者とその家族等	
	対象数	単位
	25	人
(3)平成15年度事業の内容...市が実際に行った事業の内容		
1.生活支援 農芸・陶芸・木工・工芸などの作業、公共交通機関を利用した外出などの社会体験活動、文化活動及びスイミングなどの健康づくり		
2.家族支援 連絡帳による日々の情報交換、定期及び随時の相談による支援と関係機関との連絡調整、父母連絡会の開催(月1回)		
3.地域との関わり 周辺作業所等とのレクリエーション交流等		
総事業費 6,691千円 ・報酬1,815千円・報償費1,425千円・需用費2,357千円・委託料1,059千円・使用料35千円		
(4)個別計画の概要	概要	
計画名		
計画年次	年度～年度	

8 評価指標...事業の目的達成度を計るための指標

16,17年度は目標値

	指標名	指標式・指標の単位	指標設定の意図	指標の推移(年度)				
				13	14	15	16	17
成果指標								
活動指標								

9 事業費等の年度別状況

〔金額単位：千円〕

		平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
		決算	決算	決算(見込み)	予算	予算(見込み)
事業費	決算(予算)額	7,292	7,275	6,691	6,612	6,612
	人員・時間数	8人+非常勤	8人+非常勤	7人+非常勤	7人+非常勤	7人+非常勤
	人件費	69,138	69,330	59,319	59,780	59,780
	その他経費					
	合計	76,430	76,605	66,010	66,392	66,392
	特定財源	7,292	7,275	6,691	6,612	6,612
	対象数(人)	24	26	25	25	25
	単位あたり経費(円)	3,184,583.3	2,946,346.2	2,640,400.0	2,655,680.0	2,655,680.0

10 個別評価(担当課による一次評価)

(1)達成度 評価 A ▼	A:達成している	チェック項目	・成果指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	B:一部達成していない		・活動指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	C:達成していない		・事業目標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
		説明	指標・目標を設定することには、馴染みにくい事業である。
(2)必要性 評価 B ▼	A:適応している	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・市民や社会のニーズにかなっている
	B:一部適応していない		<input checked="" type="checkbox"/> ・状況の変化(対象や内容)に対応している
	C:適応していない		<input type="checkbox"/> ・当初設定した事業目的が達成されていない
		説明	<input type="checkbox"/> ・国、県、民間、市民との役割分担から見て、市が事業を行う必要がある 市立の施設として、その役割を果たしてきたが、陽光園の運営のあり方懇談会の提言を受けて、今後、運営を委託する方向で検討を進めている。
(3)有効性 評価 A ▼	A:有効である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・上位の施策、計画目的達成のために有効である
	B:一部有効でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・期待された成果が得られている
	C:有効ではない		
		説明	知的障害者の自立支援、自己実現のために個々の状況に応じたきめの細かい対応を行っており、当該事業は有効である。
(4)効率性 評価 B ▼	A:優れている	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・予算や人員に見合った効果が得られている
	B:一部改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他市と比べてコストや効率性が優れている
	C:改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他の類似事例と比べてコストや効率性が優れている
		説明	<input checked="" type="checkbox"/> ・同一対象者に対して同種のサービスが重複していない 職員の人件費について、サービス低下とにならない範囲で、正規職員を1名減とし、非常勤職員対応(1日当たり5.5時間、1名)とすることで、経費削減を図った。また、消耗品や備品購入費等の経費については、必要最小限になるよう努めた。
(5)公平性 評価 A ▼	A:公平である	チェック項目	<input type="checkbox"/> ・対象者と非対象者との不公平・不均衡は、妥当な範囲である
	B:一部公平でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・受益者の費用負担は適正である
	C:公平でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・対象者の設定は適切である(年齢や所得等を考慮している)
		説明	知的障害者福祉法に定められた施設の運営であり、不公平・不均衡という観点における評価は馴染まない。なお、平成15年度から支援費制度に移行し、個人との契約行為によりサービスを提供している。
(6)成果の向上及び費用対効果を高めるための方策		(7)今後の課題となっていること	
職員の専門研修を行うなど、職員の資質及び専門性の向上を図るとともに、非常勤職員の比率を上げるなど、サービスを低下させない範囲で、経費削減による費用対効果の向上に努めた。		知的障害者通所更生施設と障害者支援センター松が丘園の授産施設と合わせて運営することで知的障害者支援の幅を広げ、一貫した判り易い総合的支援を図る体制を整備するとともに、経費削減と一層の効率的運営を図るため、第三陽光園の事業の運営を委託する方向で検討を進める。	

11 総合評価(担当課による一次評価)

評価	B ▼	他自治体の類似事業との比較
今後の進め方		県内の公立通所更生施設を対象に平成14年度に行った調査の結果、利用者1人当たりの経費の比較では、運営費、人件費とも最も低いレベルであった。 なお、他の自治体においても、公立の施設として果たす役割については、その必要性が議論されており、見直しが進められている。
<input type="checkbox"/>	継続	総合評価に関する説明
<input checked="" type="checkbox"/>	見直し	知的障害者とその家族を支援する施設として、当施設が果たす役割は重要である。ただし、今後は、市直営ではなく、その運営を委託していく方向で、検討を進めていく。 また、陽光園全体としては、利用者の立場に立ったきめ細かな事業展開及びより効果的・効率的な運営を目指し、(仮称)南療育相談室の設置、第一陽光園と第二陽光園の相互利用制度の実施、障害児(者)地域療育等支援事業の充実等に向けた取り組みが求められている。
<input type="checkbox"/>	完了・廃止	
<input type="checkbox"/>	完了(廃止)済	

12 二次評価コメント(行政評価会議による二次評価)

<今後の進め方:見直し>
